

第44号
研究紀要（別刷）
2017年3月

『 白 い ア ネ モ ネ 』
White Anemone

白 坂 文
SHIRASAKA Aya

夙川学院短期大学

制作概要

昨今のウェディングのトレンドは多種多様化しており、挙式のスタイルや披露宴でのオプションなど、その要素も様々である。

最新トレンドの背景となるデータとして注目したいのが平均初婚年齢の変化である¹。厚生労働省の統計によれば、平成25年の平均初婚年齢の全国平均は夫30.9歳、妻29.3歳で20年前と比較すると3~4歳上がっている。

結婚するカップルの年齢が上がったことで、ブライダルのトレンドにも影響が出ており、結婚式の招待客数と、ゲスト1人当たり単価の変化が挙げられる²。招待客数が30~40名程度に減少しているのに対し、結婚式にかける総額は平均300~320万円程度に増加している。これはゲスト1人あたりにかける金額が増加していることを意味する。

このような結果から結婚式の最新のトレンドは、本当にお世話になったゲストだけに、料理や引出物などにこだわった、ゲストの満足度に重点を置く『おもてなし婚』と言える。

また、おもてなし婚は結婚衣装にも影響を及ぼしている。衣装替えて何度も高砂を中座する時間をなくし、ゲストと一緒にいる時間を大切にしたい、ゲストをよりもてなしたいという気持ちから、1着のウェディングドレスに小物やアレンジを加え、ドレスのイメージを何パターンにも変えるという方法を重視する花嫁が増えてきている。

そこで、ベーシックなウェディングドレス・スタイルで挙式し、披露宴ではオーバースカートをとり、パンツ・スタイルで格好良くイメージチェンジ。またオーバースカートの丈を短く調整し、膝丈のカジュアルドレス・スタイルにイメージを変えられるという、基本のベーシックなウェディングドレスから3wayに変化するウェディングドレスをデザイン提案した。

ウェディングのトレンドは多種多様化している。そしてドレスについても花嫁の希望・要望は多種多様化してきているのである。そのような様々な花嫁の個性を表現できるドレスのスタイルにこだわり、挑戦したのがこの3wayウェディングドレスである。

この作品は「NDK賞」を受賞した。

白坂 文

「White Anemone」

ウェディングドレス
NHK大阪ホール

¹平成25年版厚生労働白書

²ウェディングパーク調査

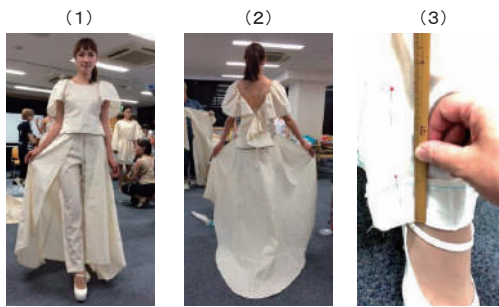
●使用素材

サマーアムンゼン、オーガンジー、ハードチュール、接着芯、ドロップ型ビーズ：4mm、スワロフスキービーズ：4mm、スパンコール：1cm、グログランリボン：3cm幅、サテンリボン：1cm幅、コットンパール、カチューシャ、コンシールファスナー、カギホック、クリップ

●パターンメイキング

文化式原型を使用し、モデルサイズの身頃、袖、パンツ、スカートのパターンを作成

●仮縫い点検の様子



- (1)-1:身頃の袖のボリュームを増やすよう、ギャザーを1.5倍に修正した。
- (1)-2:オーバースカートの前中心丈を床上がり0cmとするため、前中心丈を10cm長く延長させた。
- (2)-1:オーバースカートの6枚はぎで、サイドからバックにかけてトレーンを引くデザインにしたが、後ろ中心で丈を20cm延長するよう、サイドから後ろ中心丈を再調整した。
- (2)-2:オーバースカートのボリュームを増やすため、6枚はぎのスカートパーツのウエスト寸法を各15cmずつ延長し、ヘムラインは各30cmずつ延長させた。
- (3)-1:パンツを足によりフィットさせるため、ニーラインから裾に向かって細く修正した。
ニーラインは脇側の前後で内側に0.5cm入れ、裾は脇側の前後で内側に4.5cm入れ細くした。
- (3)-2:パンツ丈を5cm短く修正した。

●縫製のポイント

- 1) 文化式原型を使用しモデルサイズの身頃、パンツ、スカートのパターンを作成し、それぞれを展開させる。
- 2) 前身頃に花モチーフを縫い付ける。花モチーフは花卉4枚のアネモネをイメージし、直径5cmと6cmの大きさ2タイプを制作する。花モチーフの素材はサマーアムンゼンとハードチュールを2枚重ねて花びらを八重にし、中央部分を丸くぐし縫いして縮め、中心部分にドロップビーズとスワロフスキービーズを刺繍しながら、花モチーフを身頃に縫

い付ける。

- 3) 後ろ身頃はフリルが重なりボリュームがダウンするため、身頃の内側にハードチュールにギャザーを寄せたものを付け、後ろ身頃のボリュームをアップさせる。
- 4) 後ろ中心の打ち合せ部分に細リボン（サテン：1cm幅）を付け、結ぶようにする。またその部分にカギホックを付ける。
- 5) 袖は前身頃のラグラン線から後ろ身頃のフリルとして繋がるようにし、袖を膨らませるため、内側にハードチュールにギャザーを寄せたものを入れ、ボリュームアップさせる。
- 6) パンツはモデルの足のラインにフィットするよう細身にし、パンツ裾からニーライン方向に20cmのコンシールファスナーを付ける。
またこのコンシールファスナーを隠すために、花モチーフを部分的に縫い付ける。
- 6) オーバースカートの6枚はぎとし、前あきとする。縫い合わせた布端は折り伏せ縫いで始末、またヘムラインは銀糸で巻きロック始末する。
- 7) このオーバースカートを3枚制作し、これをウエストラインで重ねて粗ミシンをかけ、ギャザーを寄せる。
オーバースカートのウエスト部分にベルトを付け、ベルトにはグログランリボンを重ねてミシンでステッチする。
- 8) オーバースカートの前中心、脇、後ろ中心のラインにスパンコールを手縫いで縫い付け、ベルト持ち出しを3cmとしてカギホックを付け、その上にリボン結びのモチーフを装飾として付ける。
- 9) 直径15cm×12cmの楕円形でトーク帽の土台を作り、花モチーフとハードチュールのフリルモチーフ、サテンリボン等を飾り付ける。
裏面にクリップを固定し、ドレスの後ろ打ち合せ部分に挟み付けることとする。
- 10) アクセサリーとして、コットンパールの一粒イヤリングと、グログランリボンでカチューシャを制作する。

●リハーサルの様子





白坂 文
ウェディングドレス「White Anemone」
2016年9月22日
第84回NDKファッションショー
NHK大阪ホール